

第10回岐阜文学散歩

舟橋聖一の文学行路と『白い魔魚』

平成19年11月23日 岐阜市歴史博物館～川原町



講師：林正子先生

岐阜大学地域科学部教授
日本近代文学専攻
著書『異郷における森鴎外、
その自己像獲得への試み』他

舟橋聖一 略年譜

- 1904(明治37)年 東京生まれ。
- 1928(昭和3)年 東京帝国大学卒業
- 1938(昭和13)年 明治大学教授
- 1948(昭和23)年 日本文芸家協会理事長
- 1949(昭和24)年 芥川賞選考委員
- 1950(昭和25)年 文部省 国語審議委員
- 1955(昭和30)年 『白い魔魚』連載、映画化
- 1963(昭和38)年 NHK大河ドラマ『花の生涯』放送
- 1964(昭和39)年 『ある女の遠景』毎日芸術賞受賞
- 1966(昭和41)年 日本芸術院会員
- 1967(昭和42)年 『好きな女の胸飾り』野間文芸賞受賞
- 1969(昭和44)年 横綱審議委員長
- 1975(昭和50)年 文化功労者
- 1976(昭和51)年 死去



『白い魔魚』（「朝日新聞」昭和30年6月～280回連載）
若く美しいヒロイン綾瀬竜子は、行動力と知性に輝いて魔魚のように人の心を魅惑する近代女性。豊かだった実家が破産の悲運にあい、それに乗じた中年実業家の執拗な求愛を拒んだ彼女は、前途有望な青年との清純な愛に全身を投ずる…。女子大生竜子とその仲間たちの恋愛と生活を通して、現代と現代における人間性を追求し、舟橋文学の一つの頂点をなす長編小説である。（新潮文庫：裏表紙より）



コース案内：
富樫幸一先生
岐阜大学
地域科学部准教授
地理学



講演：舟橋聖一の生い立ち・連載当時（昭和30年頃）の文学界などの時代背景、そして『白い魔魚』について講演していただきました。内容が充実していて、時間が短く感じられました。参加者の方は熱心に耳を傾け、メモをとったりしていました。

タウンウォッチング：紅葉真っ盛りの金華山の麓を、竜子の生きた時代の面影などを探しながら巡りました。晴天に恵まれ、気持ちよい秋の一日でした。

岐阜市歴史博物館～三重塔
～ポケットパーク名水
～川原町堤防～川原町
～鶴飼観覧船待合所



河川敷に降りました。竜子も歩いたのでしょうか？ススキが夕日の中で揺れていました。



鶴飼観覧船待合所では、『白い魔魚』などについて熱心な質問がありました。



ポケットパーク名水：松尾芭蕉の句碑などがあります。川端康成の記念碑も建ちました。



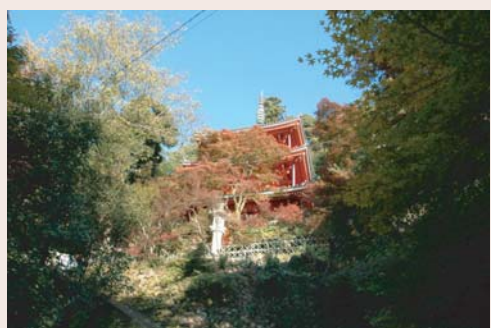
舟橋聖一は、川原町の旅館に滞在し、小説を書いたと言われています。当時の面影が残ります。



岐阜市歴史博物館前での記念撮影。今回は59名に参加していただきました。



日中友好公園を後にする参加者の皆さん。背後には紅葉に燃える金華山がありました。



三重の塔：伊東忠太氏による設計で、大正6年建設されました。長良橋の古材を使用して建設。



マップ：ぎふしまちあるきマップ（岐阜市の「まちあるきマップ」をつくろう実行委員会）より
主催：ぎふまちづくり団体交流会・（財）岐阜市にぎわいまち公社・岐阜市
後援：ぎふまちづくりセンター・岐阜市教育委員会

作成：（財）岐阜市にぎわいまち公社